

第三次下野市総合計画策定に係る

各種基礎調査結果

— 目 次 —

1	基礎調査の概要	1
2	施策評価の概要	3
3	市民意識調査の概要	6
4	中学生アンケート調査の概要	8
5	高校生アンケート調査の概要	10
6	市民懇談会・関係団体懇談会	12
7	まちづくり意見募集の結果	12

1 基礎調査の概要

◆現行計画策定以降の社会情勢や政策動向の把握とともに各種統計書類等のオープンデータを活用し、下野市の概況について整理しました。

(1) 社会経済動向(時代潮流)について

項目	概要
人口減少・少子高齢化	<ul style="list-style-type: none">●日本の総人口はこれから長期の減少期に突入していきます。2053年には総人口が約9,900万人になり、2065年には約8,800万人まで減少すると予想されています。●人口減少と高齢化の進行により、今後の社会保障の給付規模は2040年にかけて1.1倍増が見込まれます。
多様化する「リスク」への対応	<ul style="list-style-type: none">●経済社会が致命的な被害を受けず、被害を最小化して迅速に回復する「強さとしなやかさ」を備えた安全・安心な国土を形成が求められています。●自らに有利な国際秩序・地域秩序の形成や影響力の拡大を目指した、政治・経済・軍事にわたる国家間の競争が顕在化しています。
自治体SDGs(持続可能な開発目標)の推進	<ul style="list-style-type: none">●地方創生SDGsの達成に向けて優れた取組を提案する地方自治体の選定と、その成功事例の普及促進が図られています。
脱炭素社会(カーボンニュートラル)の推進	<ul style="list-style-type: none">●昨今の地球温暖化による気温上昇や、気候変動、気象災害などが全世界的な問題となっており、将来にわたり持続可能な経済社会をつくるためにも、脱炭素社会の実現が求められています。
デジタル技術革新への対応	<ul style="list-style-type: none">●人口減少・少子高齢化が進む中、経済成長を好転させていくため、産業全般、観光、交通分野など、あらゆる分野において、データとデジタル技術の活用推進が求められています。

(2) 関連計画について

現行計画策定以降策定の主な栃木県・広域圏計画

栃木県重点戦略とちぎ未来創造プラン 2021-2025(令和3年3月)
栃木県版 第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(令和5年12月)
とちぎの都市ビジョン(令和6年8月)
小山栃木都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(令和3年3月)
栃木県土地利用基本計画(令和3年3月30日)
第2期小山地区定住自立圏共生ビジョン(令和3年3月)

(3) 下野市の概況について

項目	概要
位置・沿革等	<ul style="list-style-type: none"> ●関東平野の北部、栃木県の中南部に位置し、都心から約85km圏にあり、東に鬼怒川と田川、西に思川と姿川が流れる高低差のあまりない、古来より開けた平坦で安定した自然災害も少ない地域です。 ●JR宇都宮線、国道4号が市域を南北方向に縦断し、北関東自動車道が市域北部を横断しています。 ●平成の大合併により、平成18年1月10日に河内郡南河内町、下都賀郡石橋町及び同郡国分寺町が合併して誕生しました。 ●年平均気温は概ね14℃～15℃で、夏は高温多湿、冬は低温乾燥のやや内陸性を帯びた温暖な地域となっています。
地目別土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ●市域の概ね半数が農用地となっています。
人口等	<ul style="list-style-type: none"> ●近年の人口数は概ね6万人弱で推移している一方、世帯数は増加傾向にあるため、世帯規模の縮小が進行しています。 ●年齢3区分別の構成比を見ると、老年人口が増加傾向にあり、70代以上の増加が顕著となっています。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ●就業人口は概ね3万人弱で推移しており、産業大分類別にみると第3次産業が最も多くなっています。 ●年間商品販売額の増加の一方、製造品出荷額等は増減がありつつ減少傾向が見られます。
生活基盤	<ul style="list-style-type: none"> ●市内にはJR宇都宮線の小金井駅、自治医大駅、石橋駅の3駅がありますが、コロナ禍等の影響により乗車人員数は令和2年度に急激に減少しその後回復傾向にあるものの、以前の状況には至っていません。 ●市道の整備状況をみると、令和4年時点で道路改良率は66.2%、道路舗装率は87.8%となっています。
医療福祉等	<ul style="list-style-type: none"> ●病床数は近年ほぼ横ばいに推移しており、医師数は増加傾向がみられます。 ●要介護（要支援）認定者数は平成25年度以降増加傾向にあります。 ●生活保護率は令和2年にかけてやや減少傾向にありましたが、令和3年にやや高くなっています。 ●学校数も児童生徒数も平成25年度以降やや減少傾向にあります。 ●平成25年度と比較して幼稚園数が減少した一方、認定こども園が増加しています。
主要財政指標	<ul style="list-style-type: none"> ●令和2年度の歳入額は約305億円、歳出額は約280億円となっており、平成25年度以降黒字収支が継続しています。 ●財政力指数については、0.7～0.8程度を維持しています。 ●実質公債費比率は平成25年度から令和2年度まで下降傾向にありましたが、以降上昇に転じています。 ●経常収支比率は平成25年度比では上昇傾向が見られ、新規事業等の実施余地が少なくなってきました。

2 施策評価の概要

◆第二次下野市総合計画後期基本計画で掲げた指標に対する達成状況及び令和 6 年度実施の市民意識調査、第二次総合計画後期基本計画事務事業評価及び検証シートに基づく評価結果の概要を第二次下野市総合計画後期基本計画の目標ごとに整理しました。

目標1 大切な命を育み、健康で笑顔あふれるまちづくり

▶ 施策評価と市民満足度の比較（以下同）

※施策評価：令和 6 年度事務事業評価結果から、「必要性」、「有効性」、「効率性」についてそれぞれ A:3 点、B:2 点、C:1 点として、その合計値を算出し、さらに各施策単位で平均値を求めたもの。

※市民満足度：令和 6 年度実施のアンケート調査結果による各施策の満足度(アンケート回答数に応じ、「満足:4点」、「やや満足:2点」、「普通:0点」、「やや不満:-2点」、「不満:-4点」として、その平均値を算出のうえ 5～1 の5段階で評価したもので、項目が複数の場合はその平均値とした)。

- 施策評価で見ると、各基本施策とも「8」以上となっています。
- 市民満足度で見ると、「1-1 いきいき暮らせる健康づくり」、「1-2 子育て家庭を支援する環境づくり」は高い一方、「1-5 誰もが安心して暮らせるまちづくり」はやや低くなっており、指標の達成率や施策評価との乖離が見られます。

基本施策	主な事業内容	施策評価	市民満足度
1-1 いきいき暮らせる健康づくり	健康づくりの推進／医療体制の整備／健康づくり施設の充実／新型コロナウイルス感染症等への対策	8.3	5.0
1-2 子育て家庭を支援する環境づくり	子ども・子育て支援／社会的養護を必要とする家庭への支援	8.7	5.0
1-3 高齢者が元気で暮らせる体制づくり	生きがいづくり・介護予防の推進／介護サービスの充実／在宅医療・介護連携、認知症対策の推進／安全・安心な暮らしの確保	8.0	4.0
1-4 障がい者(児)とともに生きる環境づくり	障がい者(児)の生活支援／障がい者(児)福祉施設の充実／障がい者(児)の社会参画支援	8.1	4.0
1-5 誰もが安心して暮らせるまちづくり	地域福祉の充実／生活保護の適正実施と生活困窮者の自立支援／難病患者・がん患者への支援／保険・年金事業の充実	8.2	3.5

目標2 文化を育み、心豊かな人を育て未来につなぐまちづくり

▶ 施策評価と市民満足度の比較

- 施策評価で見ると、各基本施策とも「8」を上回っています。
- 市民満足度で見ると、「2-1 将来を担う人づくり」は高い一方、「2-4 文化芸術と文化遺産による豊かな生活環境づくり」はやや低くなっており、施策評価との乖離が見られます。

基本施策	主な事業内容	施策評価	市民満足度
2-1 将来を担う人づくり	地域ぐるみの教育活動の推進／教育環境の充実／学校施設の充実	8.2	5.0
2-2 生涯にわたり学べる機会づくり	生涯学習の推進／学校・家庭・地域の連携の推進／青少年の健全育成／家庭教育の推進／生涯学習施設の充実	8.6	4.0
2-3 市民総スポーツ“ひとり1スポーツ”の環境づくり	スポーツの推進／スポーツ活動の支援	8.2	4.0
2-4 文化芸術と文化遺産による豊かな生活環境づくり	豊かな文化を育む活動づくり／文化財の保存と活用	8.9	3.5

目標3 豊かな自然と人に優しい環境が共生した安全・安心なまちづくり

▶ 施策評価と市民満足度の比較

- 施策評価で見ると、「3-1 うるおいのある緑環境づくり」、「3-2 安全・安心な生活環境づくり」は「8」を上回っています。
- 市民満足度で見ると、「3-1 うるおいのある緑環境づくり」が最も高くなっています。

基本施策	主な事業内容	施策評価	市民満足度
3-1 うるおいのある緑環境づくり	公園・緑地の整備／河川環境の整備／自然環境の保全	8.6	5.0
3-2 安全・安心な生活環境づくり	消防・防災対策の推進／防犯対策の推進／消費者行政の推進／交通安全対策の推進	8.6	4.3
3-3 快適に暮らせる生活環境づくり	ごみ処理等広域事業の推進／ごみ処理等とりサイクルの推進／環境対策の推進／公共交通網の充実	6.9	4.5

目標4 地域資源を活かし、産業・地域が躍進するまちづくり

▶ 施策評価と市民満足度の比較

- 施策評価で見ると、各基本施策とも概ね「8」程度となっています。
- 市民満足度で見ると、「4-3 魅力あふれる観光まちづくり」が最も低く、施策評価との乖離が見られます。

基本施策	主な事業内容	施策評価	市民満足度
4-1 地域の特性を活かした農業・農村づくり	都市近郊農業の推進／農業経営の改善／農業生産基盤の整備／農村環境の保全	7.6	4.0
4-2 商工業による躍進するまちづくり	商工業の基盤強化・活性化／新たな産業の誘致・育成／雇用・就業機会の拡充	7.6	3.5
4-3 魅力あふれる観光まちづくり	魅力ある観光の推進／観光資源の創出／インバウンド対策	7.9	3.0

目標5 快適でうるおいのある環境で新たな人の流れをつくるまちづくり

▶ 施策評価と市民満足度の比較

- 施策評価で見ると、「5-1 快適に住み続けられる住環境づくり」と「5-3 安全で快適な水環境づくり」は「8」を上回っています。
- 市民満足度で見ると、「5-3 安全で快適な水環境づくり」が最も高くなっています。

基本施策	主な事業内容	施策評価	市民満足度
5-1 快適に住み続けられる住環境づくり	良好な住環境づくりの推進／住宅耐震化の支援／土地利用の推進	8.4	4.0
5-2 人に優しい交通環境づくり	幹線道路の整備／スマートICの整備／道路施設の維持管理／都市交通マスタープラン策定	7.7	4.5
5-3 安全で快適な水環境づくり	安全で安心な水道／強靱で持続可能な水道／下水道施設の整備／下水道経営の健全化及び経営基盤強化	8.1	5.0

目標6 市民が主役の市民と行政が協働するまちづくり

- 施策評価で見ると、「6-1 協働のまちづくりの体制づくり」が「8」を上回っています。
- 市民満足度で見ると、「6-2 健全な行財政運営の仕組みづくり」の評価が「6-1 協働のまちづくりの体制づくり」の評価をやや上回っています。

基本施策	主な事業内容	施策評価	市民満足度
6-1 協働のまちづくりの体制づくり	まちづくり活動の推進／協働のまちづくりの推進／人権の尊重と男女共同参画の推進／国内交流の推進／国際交流の推進／多文化共生の推進	8.3	4.0
6-2 健全な行財政運営の仕組みづくり	行財政改革の推進／地方創生の推進／広報・広聴の充実／広域行政の推進	7.8	4.5

3 市民意識調査の概要

◆下野市在住の市民を対象に「下野市の住みやすさ」や「施策に関する満足度と重要度」など全 18 問のアンケート調査を実施しました。

<実施概要>

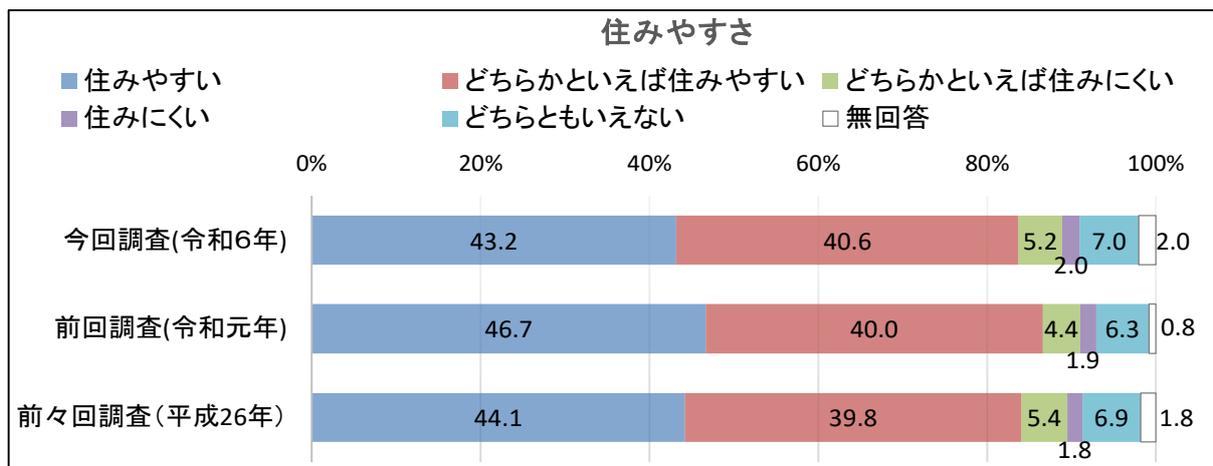
調査対象	下野市在住の市民 3,000 名を無作為抽出
調査方法	郵送配布・回収（Web フォームでの回答併用）
実施時期	令和 6 年 8 月 13 日～8 月 30 日
回収結果	1,082 票（回収率：36.1%）

<調査結果概要>

主な設問に対する結果の概要については、以下のとおりです。

● 住みやすさ

「住みやすい（43.2%）」、「どちらかといえば住みやすい（40.6%）」を合わせて 83.8%（前回調査 86.7%、前々回調査 83.9%）の方が肯定的に捉えていました。



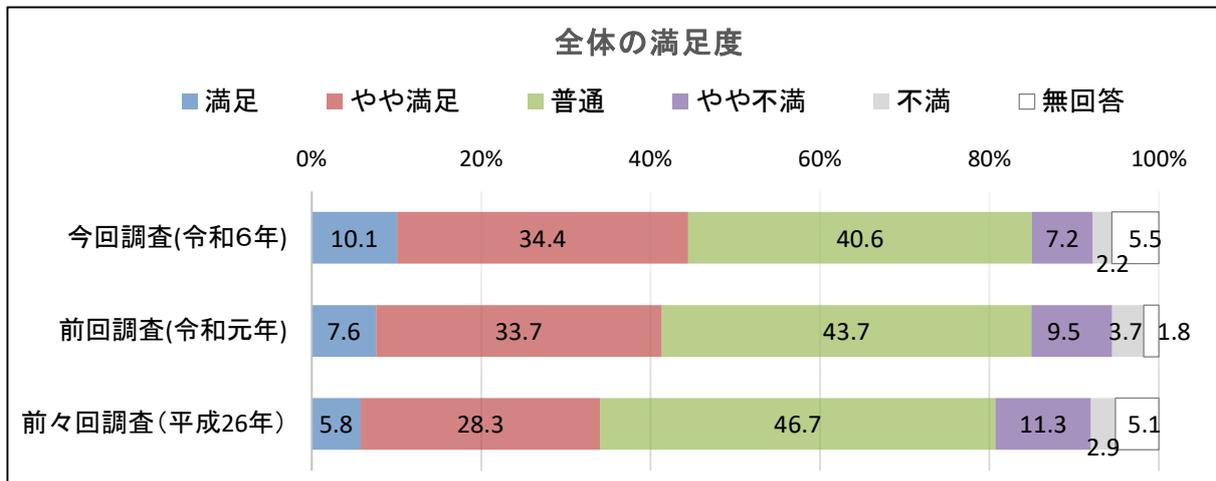
主な意見（自由意見欄から主な内容を抜粋）

住みやすい理由	住みにくい理由
<ul style="list-style-type: none"> ○近くに大学病院も有り、個人の医院も多く揃っており、医療面で充実している ○自然災害（台風、水害等、地震等）が少ない。職場が近くに有る。 ○東北線の利便性が向上し、東京方面に出向くのに、とても便利 ○とり敢えず何でも揃っており、基本的な生活で困ることがない。 ○田舎の不便さと町の便利さのバランスが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援が充実してない。 ○高齢者に優しくない（福祉サービスが充実していない） ○車が運転できないとどこにも行けない（買い物難民となるエリアが広い） ○子供が（進学して）また帰って来ても、就職できる仕事が少ない。 ○将来性がなく暗い。

● 現在の下野市の評価

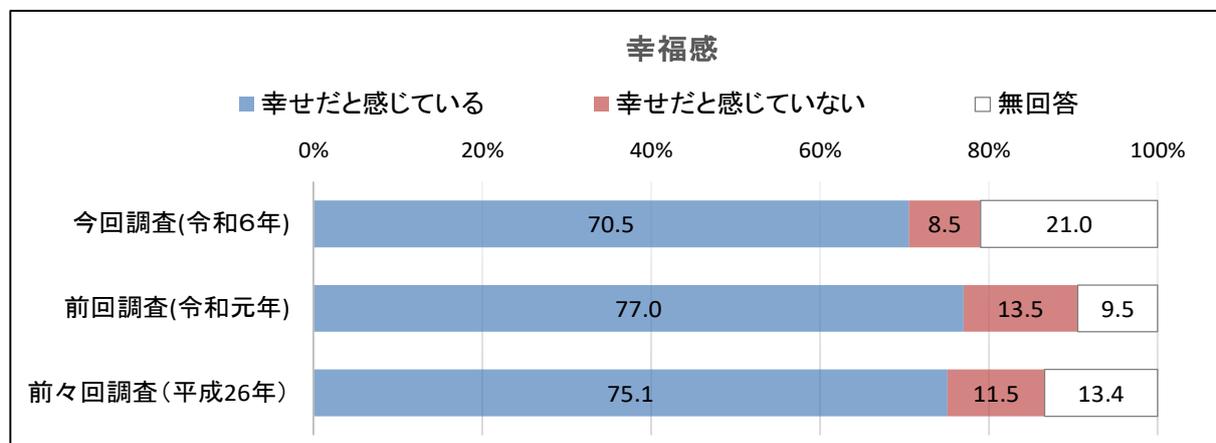
(下野市のまちづくり全体への満足度)

「普通」が40.6%で最も高く、次いで「やや満足」が34.4%となっており、前々回調査から経年的にみると「満足」と「やや満足」を合わせた割合は増加しました。また、年代別でみると、50代以下は「満足」「やや満足」を合わせた割合が5割を超え、前回、前々回より増えている一方、60代以上ではやや減少し34.5%にとどまっています。



● 幸福感

「幸せだと感じている」が70.5%で最も高い一方、「無回答」も21.0%でした。また、年代別でみると、50代以下で「幸せだと感じている」方は8割近い一方、60代以上で「幸せだと感じている」方は63%に低下し、「無回答」の割合が高くなっていました。



主な意見（自由意見欄から主な内容を抜粋）

幸せだと感じている理由	幸せだと感じていない理由
<ul style="list-style-type: none"> ○自治医科大学病院をはじめ、市内に医療機関が充実している ○大きな災害が少なく、治安も比較的良いため安心して生活できる ○自然が豊かで、風景や街並みがよいところがたくさんある ○健康・元気でいられる ○この土地が生まれ育ってきたので愛着がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○昔から住んでいる人が多く、班やしきたりにこだわり過ぎる ○生活利便性の地域格差の存在 ○若い世代が働きやすい（住みたい）環境にしてほしい ○定年後も働けるような企業がほとんどない ○子供を育てるには、施設や設備が余り対応していない

4 中学生アンケート調査の概要

◆中学2年生相当生徒を対象に「下野市の住みやすさ」や「将来の居留意向」など全11問のアンケート調査を実施しました。

<実施概要>

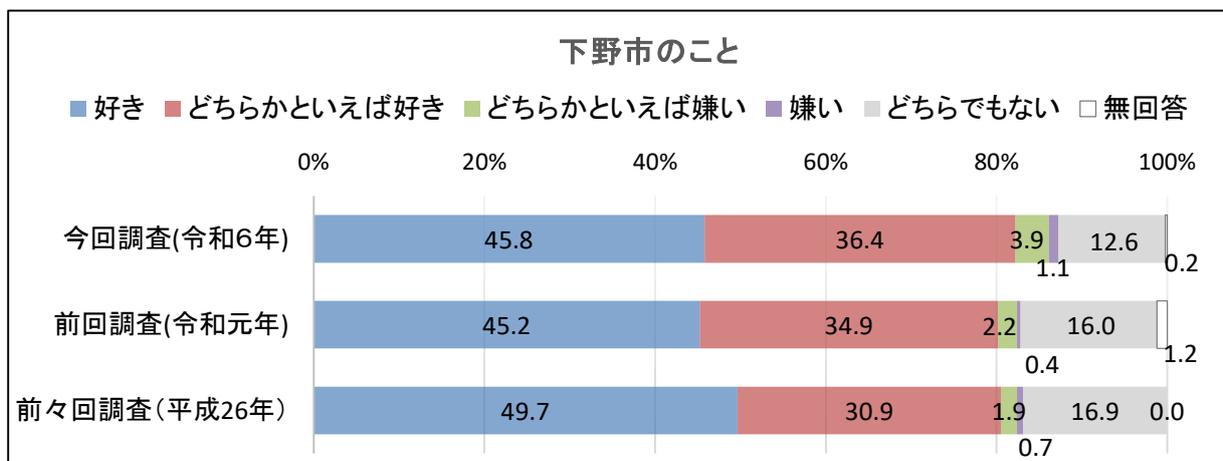
調査対象	下野市に通学する中学2年生・義務教育学校8年生
調査方法	Web フォームでの回答
実施	令和6年7月
回答数	461 サンプル

<調査結果概要>

主な設問に対する結果の概要については、以下のとおりです。

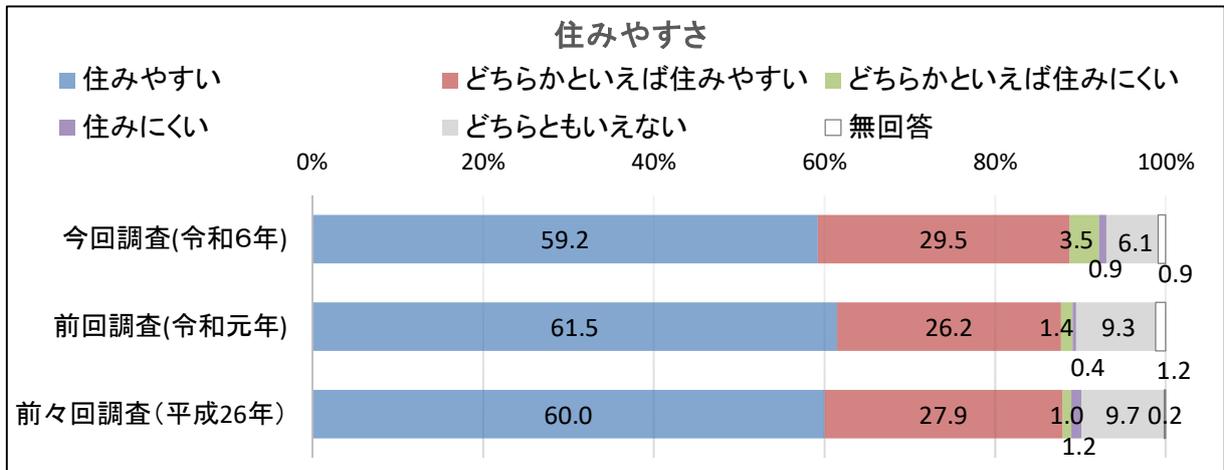
● 下野市への好感度

「好き (45.8%)」、「どちらかといえば好き (36.4%)」合わせて82.2% (前回調査80.1%、前々回調査80.6%) となり、両者を合わせた割合は前回、前々回より微増しました。



● **住みやすさ**

下野市の住みやすさについて、「住みやすい (59.2%)」、「どちらかといえば住みやすい(29.5%)」合わせて88.7% (前回調査 87.7%、前々回調査 87.9%) となりました。前回、前々回とほぼ変わらず、高い評価となっています。

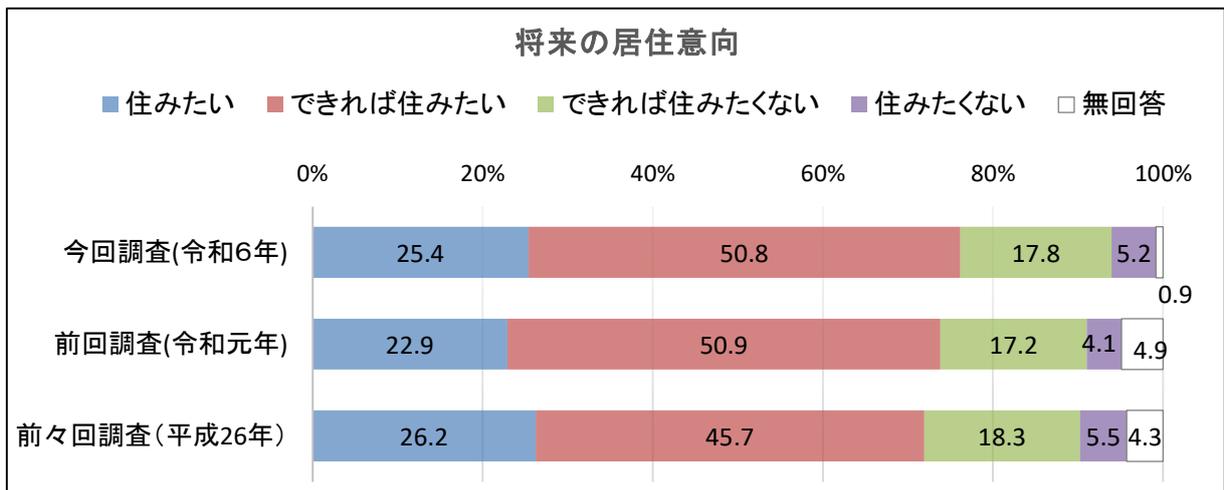


● **将来の居留意向**

「住みたい (25.4%)」、「できれば住みたい (50.8%)」合わせて 76.2%(前回調査 73.8%、前々回調査 71.9%)となりました。

住みたいと思う理由としては、「下野市は暮らしやすいから (53.3%)」、「下野市とその周辺に住み慣れているから (40.2%)」などとなっていました。

住みたくない理由としては、「都会に住みたいから (47.2%)」、「市外の方が買い物したい店や遊ぶ場所が多いから (39.6%)」などとなっていました。



5 高校生アンケート調査の概要

◆高校生生徒を対象に「下野市の住みやすさ」や「将来の居留意向」など全 11 問のアンケート調査を実施しました。

<実施概要>

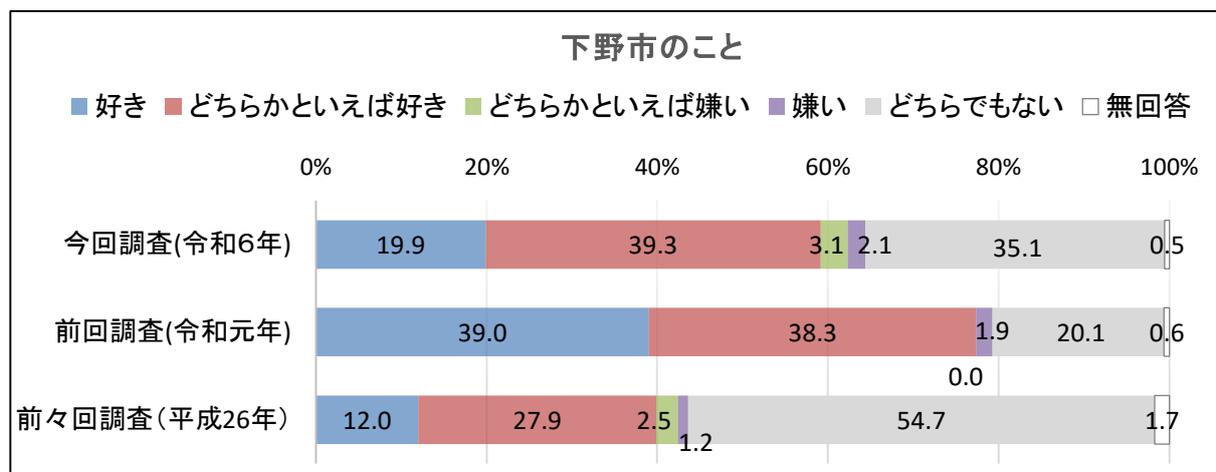
	今回	前回	前々回
調査対象	石橋高校 2 学年生徒	高校 2 年生に相当する市民	小山北桜高校・石橋高校生徒
調査方法	Web フォームでの回答	郵送配布・回収	学校配布・回収
実施	令和 6 年 7 月	令和元年 7～8 月	平成 26 年 7 月
回答数	191 サンプル	154 サンプル	408 サンプル

<調査結果概要>

主な設問に対する結果の概要については、以下のとおりです。

● 下野市への好感度

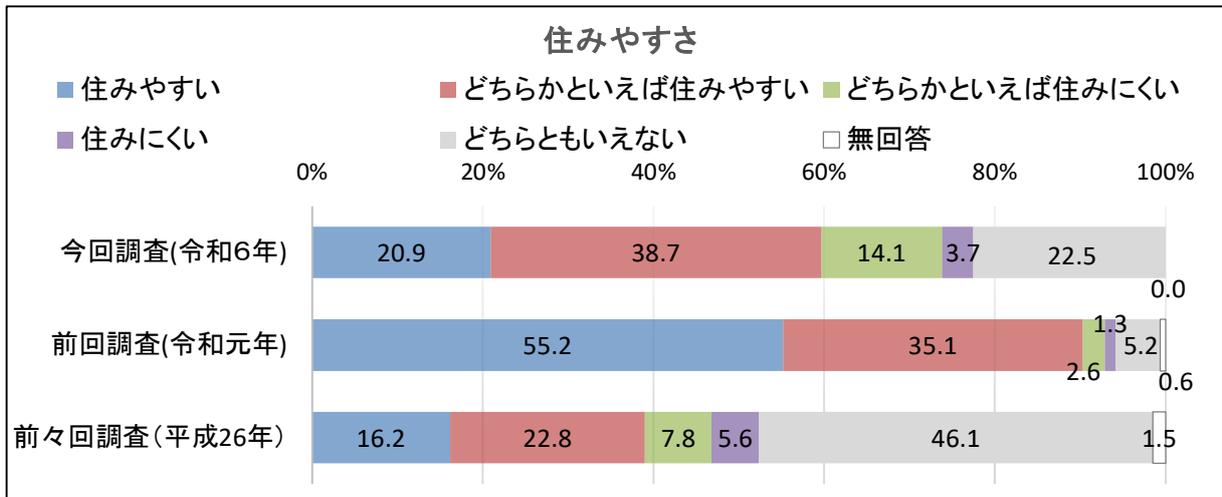
「どちらかといえば好き」が 39.3% で最も高く、次いで「どちらでもない」(35.1%) となっています。前々回調査と比較すると「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた割合は増加しました。



※今回(石橋高校)、前々回(石橋高校・小山北桜高校)と前回(市内在住の高校 2 年生相当者)では調査対象が異なるため、グラフを比較する際はご注意ください。

● **住みやすさ**

下野市の住みやすさについて、「住みやすい (20.9%)」、「どちらかといえば住みやすい (38.7%)」で、合わせて 59.6% (前々回調査 39.0%) の生徒が肯定的に捉えていました。

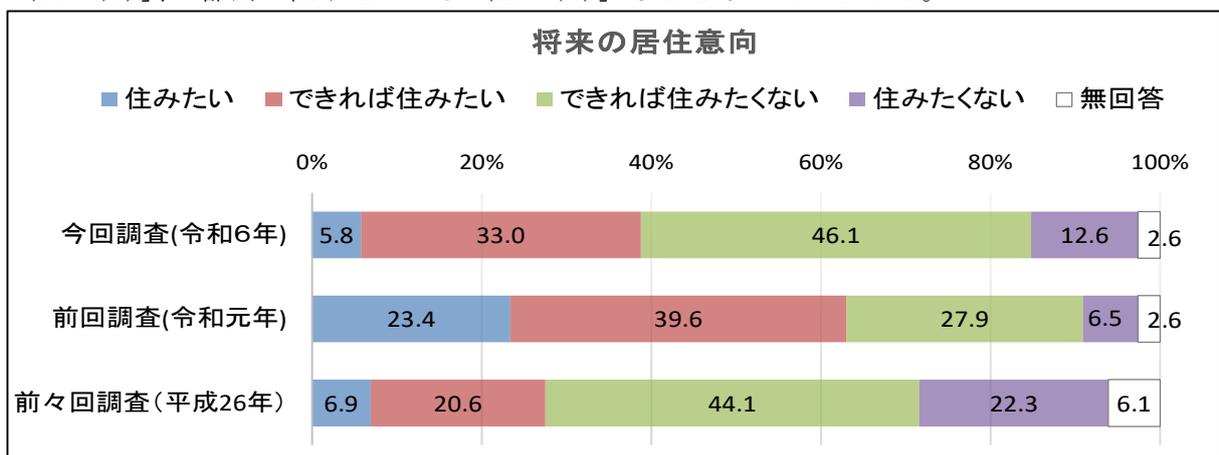


● **将来の居留意向**

将来下野市に住みたいと思うかどうかについて、「住みたい (5.8%)」「できれば住みたい (33.0%)」合わせて 38.8% (前々回調査 27.5%) でした。

住みたいと思う理由としては、「下野市は暮らしやすいから (50.0%)」、「下野市が好きだから (28.4%)」、「下野市とその周辺に住み慣れているから (28.4%)」などとなっていました。

住みたくない理由としては、「市外の方が買い物したい店や遊ぶ場所が多いから (43.8%)」、「都会に住みたいから (42.9%)」などとなっていました。



6 市民懇談会・関係団体懇談会

◆公募による一般市民と下野市のまちづくりに関係する各関係団体メンバーを対象にワークショップ形式による懇談会を開催しました。

市民懇談会

<開催概要>

開 催	令和7年2月15日(土) 10:00~12:00 会場：国分寺公民館（参加4名）
対 象	18歳以上の市内在住の方、または下野市に通勤通学されている方
会議次第	1. 開会・本懇談会について 2. 資料説明（下野市総合計画、本懇談会の目的等） 3. 懇談会（テーマ：下野市のこれからのまちづくりについて） 4. その他 5. 閉会
主な取組 アイデア (抜粋)	・下野市の魅力を小学生や幼稚園からイベントPRするべきだと思う ・体験農業で農家に強みをもってもらう。貸農園グリム幼稚園が来る ・ベンチャーしやすい環境づくり

関係団体懇談会

<開催概要>

開 催	午前の部：令和7年2月1日(土) 10:00~12:00 午後の部：2月1日(土) 14:00~16:00	(会場) 下野市役所 203 会議室
対象団体 (分野)	【午前の部】 保健福祉分野 教育・文化分野 【午後の部】 産業・都市基盤分野 生活環境・地域社会分野	
会議次第	1. 開会・本懇談会について 2. 資料説明（下野市総合計画等） 3. 懇談会（テーマ：下野市のこれからのまちづくりについて） 4. その他 5. 閉会	
主な取組 アイデア (抜粋)	・福祉に関するボランティアの育成と組織的運用 ・公共事業の充実が必要 ・高齢者から若者が楽しめるeスポーツの推進 ・地域の皆さんが楽しめる事業を計画し、子どもから老人まで参加できるようにする	

7 まちづくり意見募集

◆市ホームページより発信し、これまでの下野市のまちづくりに対する評価や課題、今後のまちづくりで重点的に取り組むべき事項などについて意見を募集しました。

募集期間	令和6年12月27日~令和7年1月30日
提出方法	郵送、FAX、メール、窓口、しもつけオンラインサービス
提出件数	2件
主な取組 アイデア (抜粋)	・近隣自治体と協力して遺跡を利用したイベント開催や、遺跡散歩コースと先進的な医療を活用した健康的な街づくりなど下野市ならではの町の特色をアピールするのが良い。 ・自主自律の精神を養い子供たちばかりでなく高齢者もリスクリングでお金を稼ぐ力を身に付けられる様なまちづくり。 ・下野市は子育て支援が充実していたり、公園など公共施設が豊富でとても住みやすい。今後もより住みやすい街になればいい。